

平成 28 年 12 月 5 日

奥州市民のみなさま

「域外漏出を測定し、域内循環経済を設計するための家計調査」 ご協力をお願い

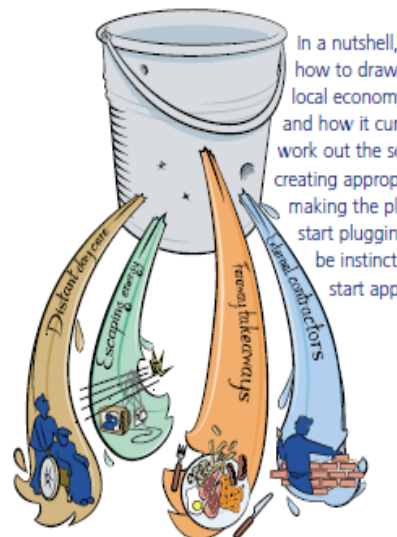
中央大学法学部教授 中澤秀雄

〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1

中央大学法学部

私は中央大学に所属し地域社会学・まちづくりについて研究・実践をしている学者です。東日本大震災後のボランティア基地を奥州市の皆様にお世話いただいたご縁で、数年前から奥州市で様々な調査を実施し、また奥州市役所の各種委員会の委員も務めさせていただいております。

これまでの研究から私は次のような仮説を得ています。すなわち、奥州市の地域経済は相当額の「外貨」を稼ぎながらも（年間 1 兆円弱と試算されます）、ほぼ同額が直ぐに域外に流失（漏出）しており、これが地域経済のボトルネックになっているという仮説です（下のイメージ図をご覧ください）。域内での経済循環が何回転もするようになれば、それだけで奥州市の市民総生産（市内 GDP）は上昇し、豊かさの実感が得られるはずです。



※左図のようにいくら外貨を稼いでも、右図にあるように域外漏出しているのであれば、バケツに水はたまらない（経済は豊かにならない）。

前置きが長くなりましたが、私が抱えているこの仮説を証明するためには、市民の皆様にご協力いただき、家計調査を実施することが不可欠です。この家計調査にご協力いただきたく、ご連絡を差し上げました。

この家計調査は、一般にイメージされるものとは次の 3 点において異なり、奥州市民の皆様にとっても、ご自身の経済生活を見直すきっかけとして頂けるのではないかと考えております。

すなわち、この家計調査は

(1) 毎日のレシート等を元に、オンライン（インターネット）または PC (excel) 上にご自分で記入いただきます（どちらの環境も不慣れな場合、紙に記入いただくことも可能です）。**支出のみを記録し、収入については一切伺いません**。入力結果はご自分で直ぐに把握できますので、何らかの発見があるのではないかと存じます。

(2) 毎日の支出については、金額のみならず、**域内資本の店で購入したか、その製品の製造元は地元企業・個人であるか**、という点を重視して記入いただきます。判断のつかない場合には中澤研究室がサポートいたします。

(3) 結果は中澤研究室で毎月集計し、家計消費額のどの程度が域外流出しているか、これを奥州市全体に置き直せばどのような数字になるか、**毎月レポートいたします**。このレポートは市当局や JA とも共有し、政策提言していきたいと考えております。

なお、毎月お答えいただく中で、「域内の物品をもっと買おう」というような意識が出て来られるのではないかと存じます。そのように意識して消費先を変更され、結果として月が進むにつれて家計構造が変化していくことは、大歓迎です。逆に、家計消費には季節変化がありますので、意識して行動を変化させなくても調査の意義は大きいです。無理のない範囲で試みていただければ幸いです。

ご不明の点がありましたら、お気軽に冒頭の問い合わせ先にご連絡下さい。また「詳細がよくのみこめない」というようなご不審を抱かれるようでしたら、ご都合のよいときに直接お伺いし、趣旨と要領をご説明させていただきます。大変なお手間をいただくこととなりますが、奥州市の地域経済の未来のためご協力いただけますよう、ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。

以上